

4		1	
7	5		
8	6	3	2

- 1 本みこしの締めくくりは、恒例の三三七拍子で。境内を埋めた大勢の皆さんもごいっしょに。
- 2 大迫力の本みこしと加賀獅子の練り合い。両者共に最後の力を振り絞った壮絶な激突を繰り返し、神社祭はクライマックスを迎えます。
- 3 港を埋めた大勢の観客の拍手で見送られる中、長い歴史の中で初めて行われた海上渡御。来年以降、本祭のハイライトとなりそう。
- 4 「艶龍会」の艶やかな魅力も神社祭には欠かせない存在。多くの沿道の観客を集めていました。
- 5 天狗に抱かれ、思わず泣き出してしまおう子さんも。
- 6 7年ぶりに復活した笛太鼓の生演奏。
- 7 渡御行列の訪れを、独特の舞と共に声高らかに告げる越中赤坂奴姿の氏子たち。行列の先頭を行く彼らのかけ声無くして神社祭ははじまらない。
- 8 浜風を受けてたなびく色鮮やかな大漁旗。カラーでお見せできないのが非常に残念です。



羽幌神社例大祭

これ、今年は無末が重なったこともあって沿道を埋めた大勢の観客らは、本みこしと加賀獅子の迫力ある練り合いに歓声をあげていました。
心配された天候もなんとか持ちこたえ、羽幌の一年で最も熱い3日間は盛況の中、幕を閉じました。

最終日の10日に行われる後祭（あとまつり）では、7年ほど前からカセットテープでの演奏となっていた笛太鼓の生演奏も復活して祭を盛り上げました。
午後からは神社祭のハイライトである名物のけんかみこしが交差点ごとに繰り広げら

色とりどりの大漁旗を掲げた漁船の勇壮な姿には、歴史的瞬間を一目見ようと漁港に集まった観客からも拍手が沸き起こっていました。
今年には百年を超える歴史の中で初めて、本みこしが漁船に乗せられて海上を渡る海上渡御（とぎよ）が9日の本祭（ほんまつり）に実現し、御座船となる幸春丸に安座された本みこしは、先導船に導かれ11隻の大漁旗を掲げた漁船と共に漁港から羽幌沖の間を30分程度航行し、海の安全と豊漁を祈願しました。

今年には百年を超える歴史の中で初めて、本みこしが漁船に乗せられて海上を渡る海上渡御（とぎよ）が9日の本祭（ほんまつり）に実現し、御座船となる幸春丸に安座された本みこしは、先導船に導かれ11隻の大漁旗を掲げた漁船と共に漁港から羽幌沖の間を30分程度航行し、海の安全と豊漁を祈願しました。

羽幌に夏の到来を告げる一大行事、羽幌神社例大祭が7月8日から10日までの3日間にかけて盛大に行われました。

今年は初の海上渡御も